

2月

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■展示観覧料が必要です。
※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、
話題や内容は実に多彩。

どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

※「たっぷりアメリカ——春のみんなくフォーラム 2012」期間中はアメリカに関するお話をお届けします。

5日
(110日)

時間：14時30分から15時30分
話者：関雄二（国立民族学博物館 教授）
話題：古代文明を掘る
場所：本館展示場内ナビひろば

12日
(110日)

時間：15時30分から16時30分
話者：鈴木紀（国立民族学博物館 准教授）
話題：メキシコの木彫アレブリヘ
場所：本館展示場内ナビひろば

19日
(110日)

時間：11時から12時
話者：中牧弘允（国立民族学博物館 教授）
話題：カーニバルでつながるブラジルと日本
場所：アメリカ展示場

26日
(110日)

時間：14時30分から15時30分
話者：藤井龍彦（国立民族学博物館 名誉教授）
話題：アンデスの箱形祭壇
場所：アメリカ展示場

1年間みんなくに何度でも入館できる 「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。

(電話06-6877-8893/平日9:00～17:00)

編集後記

異常に周期のながい、ゆるやかな横揺れを足元に感じ、研究室で作業をしていたそれぞれが何かと廊下にとびだした。自分の眩暈か、錯覚か確かめようとした人もいたようだ。まもなく地震があったという速報が入り、事務室の隣部屋のテレビをつけるとすでいくつかのテレビ局は津波警報をくりかえし、東北の海岸線の映像を流し始めていた。いつもどおり何事もないうらろろとタカをくくっていたわたしをふくめ、やがて画面での大惨事を目にしながら、なすべもなく時を過ごすことになった。以来、ほぼ1年のあいだ、それぞれ、さまざまな思いでその情景を反芻し続けてきたに違いない。民博では、文化人類学的視点からの震災被害や記憶保存のデータベース作り、文化財復元の支援、被災地域復興の国際比較などいくつかのプロジェクトが進行しつつあるほか、被災体験などの聞き取り調査を続ける研究者も少なくない。3月11日を1カ月後にひかえ、研究者として、同じ日本の住民として、そして人として何ができるのか、震災がわれわれに突きつけた問題をあらためて問いなおしてみたい。(庄司博史)

●表紙：NPOの協力によりやっと完成した集会所で、つかの間の餅つきを楽しむ。(撮影・鎌澤久也)

次号の予告

特集

複製・復元・再現

月刊みんなく 2012年2月号

第36巻第2号通巻第413号 2012年2月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

電話 06-6876-2151

発行人 八杉佳穂

編集委員 庄司博史(編集長) 樫永真佐夫 川口幸也

久保正敏 菅瀬晶子 中牧弘允 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一敦

制作・協力 財団法人千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

